

1 学年進路研修旅行（9月21日実施） レポート・感想 まとめ

東大コース：東京大学・大学院

①東京大学分子細胞生物学研究所 宮島篤 教授（幹細胞について）

・幹細胞の機能のすごさと、将来性の高さに驚きました。ES 細胞、iPS 細胞は研究がどんどん進んでいるが、ノーベル賞をとったほど有名なのに身近にない。身近で使おうとするとお金と時間が必要で安全確認も必要とすることが分かった。もっと、開発研究が進み、たくさんの方で使われ、多くの命を救い、病気を治せるようになるといいなと思う。

・「大学に入ったらそれで人生が決まってしまうわけではない。その時その時、よく考えて選択するのが大切。後にならなきゃ、どの選択が最適かわからない。」「自分の人生はどうなるかわからない。可能性や自分を信じて進んで行くべきだ」という言葉がとても印象に残りました。飯田高校の先輩として活躍している先生の背中を追って私も自分の人生を歩んでいきたいと思いました。

②東京大学大学院人文社会系研究科 松村一登 教授（ウラル系言語・文化）

・言語の基準とはあいまいなもので、国家・宗教・文字などで変わってしまうもので、定まったものではない。英語も一番使われてはいるが、どこか意味合いが違うようにもとれるのです。それは、日本語と中国語は漢字を使っているのに意味が地味になってしまうようなのだと感じます。つまり、お互いに意志を通じ合わせるには、言語の内側に隠れている意志をくみ取ること、つまりコミュニケーションをとることが大事なのではないでしょうか。私は、言語をただの「道具」としか考えていませんでしたが、言語にはそれ以上の意味と可能性があることに気がつきました。

・1つの言語しか世界になかったら、楽で暮らしやすく他国との関わりも依り多くなるだろうと考えたが、教授は「言語が多様である方が普通。1つの言語の方が危険」と考えていました。言語は、世界やすむ人の生活が変われば変わっていくものだから、元が1つだとしても増えていくはずだとおっしゃっていました。文化を尊重するように言語を尊重することが大切だと分かりました。また、数十メートルを隔てて、言語が違う地域の話聞いて分かりやすくおもしろかったです。

③東京大学大学院農学生命科学研究科 宮下直 教授（生物多様性の解明）

・なぜ生物は絶滅してゆくのか、その背景とともに生物について知ることができました。生物が絶滅してしまうのは、地球温暖化だけだと思っていました。ですが、ヒトが開発しすぎたり、手入れをしなすぎたり、外来種によるかく乱であったり、様々な要因があることが分かりました。発展しすぎる現代社会が生態系を壊し、その私たちが人為的に生態系を構築している。この矛盾に気づくべきだと思いました。もしかしたら、リニアが通った飯田は、経済発展もせずただの通過点となり、豊かな自然が崩されるだけ、ということにならないよう、その危険性を知るべきだと感じました。

・1つの種を維持するために多くの種が必要だと言うこと。地球上には200万種という種類の生物が知られているが、実際はその何倍もいて、その大半が昆虫であるという推測は、未来の生物学の発展を予感させる。土中の微生物は、まだ1%ほどしか分かっていない。1gの土中に数十億の微生物がいて、医学などに応用できる。生物多様性を守るためには、自然をそのままにした方が良く思っていたが、適度に人間が手を入れることの方が保たれるという話には驚かされ、納得させられた。



早大コース：早稲田大学・ホンダ技研工業（株）

①早稲田大学大学院社会科学系研究科 上沼正明 教授（社会科学関係）※以下は、生徒のレポートを再構成したもの

・キャンパスに外国人留学生が大勢（すれ違う人の半分くらい？）いて驚き。さすが留学生数一位。
・上沼教授のお話で一番心に残ったのは「縁」だ。なぜ学生時代の政治経済学部でなく社会科学部なのかというと、たまたま講師募集していてそれに受かったからなのだそうです。人生何がきっかけで変わるかわからないよ、それに、「人間至る所青山あり。」だ。自分の今いるところで自分のやるべきことに懸命に努めることが大事なんじゃないか、と。また、出身の高森町の柿の話に関わって、故郷で得た智恵が今の自分の発想の原点のようなものになっているということをお聞きし、今の自分の境遇を大事にしなければと思った（飯田高校制服自由化の時の生徒自治会長だったという話も聞いた）。

・図書館について WINE という蔵書管理システムにより、予約者が自分の前に何人いるかわかり便利。世界各国の新聞があり（北朝鮮のもの！）、同じ事件をどのように報道しているか国ごとの違いを知れる。三つのゾーンに分かれていて、討論したり、静かに資料に目を通したりと、用途によって使い分けられる。蔵書数は日本の大学では四位。国宝2点重文5点を所蔵。

②本田技研工業株式会社 白木千春さん

まず ASIMO ショー、続いて講演をしていただく。以下、生徒のレポートを中心にまとめた。



- ・ASIMO もよかったが、UNI CUB(座ったまま体重移動だけで動くイスのようなロボット) に感動。HONDA の人間尊重の理念が詰まったロボット。その後の講演では、HONDA の歴史・理念など話していただく (以下、質疑応答を含む講義内容の抜粋)。
- ・HONDA は、「三つの喜び」(「買う喜び・売る喜び・作る喜び」) を重視。「自分のことよりお客様を最優先」している。買う人の目線で設計。「お客様のために」はHONDA のDNA。
- ・市場がなかったアメリカにオートバイを販売する時、「どうなるかじゃない、どうするかだ」「需要がないなら需要を起こす」(創業者本田宗一郎) 前向き、チャレンジ。
- ・HONDA は上司が自分の意見を聞いてくれチャレンジさせてくれる会社。入社数年後に一人でブラジルに赴任する機会を与えてくれ、上司からの信頼を感じた。
- ・学生時代には何か一つでいいから取り組んで欲しい。大好きで語れるものを持つ人間になって欲しい。また、今から出来ることはなにか。それをやる。
- ・働く上で大事なのは、どういう自分でありたいか、どう生きたいか。
- ・HONDA が必要としている人材=自分をよく知っており、自分についての理解が深く、チャレンジ精神があり、HONDA のために何が出来ることが分かっている。
- ・HONDA スマイルの方々を中心に講義して下さった。(笑顔がみんなすてきで、私もあんなふうになりたいと思ったとの感想あり) 自分の将来に向けて参考になる内容で、刺激を受けて帰ってきた。

京大コース：京都大学・(銀閣寺)・オムロン

①京都大学理学部・大学院理学研究科 常見俊直先生のお話+小講義

・担当して下さった常見先生はとても親切に、冗談も交えながら送った質問に答えてくださいました。京大生の方々はとてもユニークな人が多く、見るからに「頭よさげ」な感じでした。京都大学には教授(先生)と学生の間には全く溝が無く、とても落ち着いた雰囲気勉強ができる所のような感じでした。常見先生がおっしゃるには、「大学は既知を学ぶ所、大学院は未知を研究する所」だとのことでした。また、京都大学では、四年の過程終了後、就職するのはたったの2~3割で、他はほとんど大学院に進学するそうです。それほど学ぶ意識が高い所なのだろう、さすがは学者を養成するための学校だと思いました。また、学生の方に伺うと、大学では授業だけでは点を取ることはできないそうで、やはり「自分で学ぶ」ということが大切なのだと思います。大学では高校での学習を基礎として応用していくので、高校でしっかりと勉強しておくのが何よりも大事だと思います。これからも不断の努力をしていきたいと思えます。最後に講義を少ししていただきましたが、全く内容を理解することができませんでした。マクスウェルの電磁方程式の内容はまずベクトルを学び、微積分を学んでやっと理解できるかどうかという境地だそうです。これからの学びがとても楽しみになってきました。



②オムロン(コミュニケーションプラザ) 見学

・今回の体験を通してオムロンの魅力がとても伝わってきました。オムロンが私達の生活に深く関わっていることは、身近なもので知ってはいましたが、オムロンの歴史、魅力をたくさん学ばせて頂き、日本の最先端の技術やそれが私たちの生活の支えになっていることに改めて気づかされました。また、「様々な製品を提供しているということがオムロンにとっての強み」という言葉を聞き、オムロンはたくさんの方々、企業から信用されて必要とされているのだと伝わってきました。また海外への進出や社憲なども強く印象



に残り「人に優しい会社」は社憲が核となっていることも初めて知りました。「身近にあって人々の生活を支えてくれている会社なのに私は何も知らなかったんだな」と反省しました。ですが、このような機会を頂き、様々な歴史、魅力、技術の発達を直接この目で見る事ができたことに本当に感謝しています。また、一つ一つの質問に丁寧に対応していただいたその姿もすごく印象に残っています。小さなことですが、やはりそういうことの積み重ねが信頼や支えを作っているのだと思います。「ぶつからないクルマ」も今や日本中に知られていますが、その技術にオムロンが関わっていることは知りませんでした。これからも日本の生活を支えていって欲しいと思えます。

名工大コース：名古屋工業大学・中日新聞社

①名古屋工業大学教授 平澤 美可三 教授(数学・位相幾何学)

・平澤教授のお話は、「二次関数を日常生活で使ったかことがあるか?」という問いから始まり、数学は使わなくても問題なく生活はできるが、実は日常に二次関数をはじめ数学的なことがあふれていて、それを解くことを避けているだけだ。その原理を学び更に改

良したものを世に出していくために、ここの学生がいるというものだった。スマホを使うことはできていても、その仕組みを知らなければ作ることはいかない。そのために、数学などを学ぶのだということがわかった。そして、もっと数学について学びたいと思った。

- ・助手として来ていた大学生から「折り紙が趣味で、その世界を追究していくうちに数学の世界に入り込んでしまった」「大学選びの前に夢を持とう、夢を実現するために勉強するのだ」などの話を聞いて、自分で早くそのような世界を発見したいと思った。

②中日新聞社 名古屋本社



- ・まず新聞社に入るときに厳重なセキュリティに驚いた。その後、新聞の製作過程を見学したが、編集局がテレビドラマで見るのとは全く違い、静かな雰囲気の中で仕事をしていて、1秒に33部も印刷する高速の機械を見学、朝刊、夕刊など3回の時間差で印刷することで遠い場所への発送に間に合わせる仕組みなどがわかった。

- ・質疑応答には、社会部部長が来てくださり、1つ1つ丁寧に答えてくださったが、中でも印象に残ったのは、「新聞が世の中を変えていく。その中の1つとして、奨学金制度を見直すきっかけを作れたこと、脱原発報道を大切にしていること」「政治の圧力などに屈しない

不偏不党の心で記事を書いている」ということだ。今後、1字1字に込められた思いを真剣に読み取ろうと思った。

- ・スマホなどの普及により、新聞という媒体が衰退していくのではという質問には、「テレビが登場した時も同じような心配があったが、結局、新聞は残ることができた。もちろん安心はしていないが、これからもしっかり取り組んでやっていく」という答えを聞いて、これからも新聞の魅力を探り、しっかり読んでいきたいと思った。

- ・中日新聞社は、産休・育休についての保証がきちんとされているため、女性社員も多く、3年後の離職率は0%だという。やる気さえあれば充実した仕事ができるのだと聞いて、自分もやる気を出したいと思った。

名大コース：名古屋大学・トヨタ自動車（生徒感想より抜粋）

①名古屋大学大学院生命農学研究科 北島 健 教授（生物学）

- ・北島教授の講義では、飯田高校のOBとして、また、これから研究者を目指す人に向けてのお話をいただきました。特に印象に残ったのは、・理屈をつけて考える。・ヒトと同じことはしない。人のために役立つと思う気持ちを持つ。という事です。人と同じような研究をするのではなく、だれもやってこなかった分野を研究テーマにすることが重要であるとおっしゃっていました。それを見つけることは大変だがやりがいがあるとも話してくださいました。

また、印象深かったのは「高校生活で多少勉強が出来ようと、スポーツが上手かろうと将来役に立たない。それよりも自分がやりたいことを探せ。」という言葉でした。まさに、僕が悩んでいた事だったのでほっとしました。これからの高校生活で自分がやりたいことを探していく良いきっかけになったと思います。

②トヨタ自動車（トヨタ会館、トヨタ鞍ヶ池記念館にて企業説明[パートナーシップ部長 玉置章文氏]、展示室見学）

- ・トヨタ会館では、美しい展示の数々に圧倒されました。自動車づくりの過程や、バイオリンを弾くロボットなど最新の技術やシステムを見学することが出来ました。美しくカッコいい車を間近で見ることができ、感動しました。トヨタ鞍ヶ池記念館では、仕事とは何かについてお話いただき、多くの事を知ることができました。「現地で仕事」や「お客様第一」、「お客様のために、世のため人のためになんでもやるぞ」という心構えなど、世界的な企業であるトヨタならではの理念を知ることができて、本当に良かったです。そして、そのポリシーや心構えが、トヨタ自動車の前身の豊田自動織機製作所のころからずっと引き継がれているということが展示や説明して下さっている副館長さんや学芸員のかたから強く伝わってきました。細部まで、日本人に合うようにつくられたクルマ、故障への親切な対応など1つ1つの小さなことが、トヨタ自動車を大きくし、信頼を得たのだと思いました。まだ高校1年生で、社会のこと、将来のことなど深く考えていない部分も多いですが、今回学んだ「ありがとう」と言われるために働くと言うことは社会に出て必ず役に立つと感じたので忘れないようにしたいです。



藤田コース：藤田保健衛生大学・中部日本放送

①藤田保健衛生大学（臨床工学科・医療経営情報学科）

生徒のレポートより（抜粋）

・臨床工学科では、手術器具や人工透析機などを見学しました。大学生が授業で、心電図の分析を行っていましたが、授業のスピードがあり、意見を出し合いとても印象的でした。

・医療経営情報科では、医学医療に関する基礎知識、情報管理、経営等すべてのことが学べる環境にあります。

就職率が100%であることも知り、コミュニケーション能力も大切だとわかりました。人を助けることは、直接接したり手術をするだけでなく、経営面等で間接的に人を助ける方法もあることを知りました。

・私は以前から医療系に興味があり、将来は医療系に進むだろうと漠然と考えていましたが、今回の研修旅行で、「やっぱり行きたい」という気持ちが強くなりました。医療系の資格を取ることは年々難しくなっています。資格試験の合格率の出し方は大学により計算方法が異なることも知りました。高1では親子で将来のことを考え目標を作り、高2では学部、学科を絞り、夢を持つことが大切だということがわかったので、今のうちから色々な大学の学部や職業を調べていきたいと思いました。

・学生がお互いの知識を出し合いながら課題を解決している真剣な姿を見て、自分の勉強態度が恥ずかしくなりました。見せて頂いた学生さんたちと同じ位置に立てるよう頑張りたいと思いました。

・最後まで成し遂げることができず、夢半ばであきらめてしまう人が多いことも知りました。実際の授業を見たときに、ビリピリした雰囲気、内容も難しく、私がそこについて行ける自信がとて小さくなってしまいました。自分の進路について良い決断をするきっかけとなりました。

②中部日本放送

・CBC は日本で初のテレビ、ラジオ放送をした局だと知って驚きました。初期のテレビやラジオのポスターが飾ってあり、歴史を感じました。今のマイクと比べるととても大きい、当時のマイクも展示されていました。

・CBC は他局に比べて、独自の制作番組が多く、またイベントを企画するなど地域の人々とのふれあいも大切にしていることがわかりました。

・アナウンサーの「フリートークなど自分の積み重ねてきたことが応用につながる。原稿をそのまま読むのではなく、伝える気持ちで自分の言葉にする」という言葉に感銘を受けました。自分の興味のないことでもチャレンジする精神で、自分の経験をより広く豊かなものにしていきたいと思いました。

・ラジオスタジオでは実際にライブ放送を行っていました。スタジオには必ず震度計があり、窓に面していて、外の様子がわかるようになっていました。テレビのニュースアナウンサーの席に交代で座り、記念写真も撮りました。



信大コース：信州大学繊維学部・日置電機（株）

①信州大学繊維学部応用生物科学科 松村英生 准教授

・繊維学部では、遺伝子実験部門の松村准教授による最新の研究（遺伝子配列の解析技術等）についての講義をお聞きし、その後同研究室の学部生、院生数名による小グループでの懇談を行いました。生徒たちは大学での生活について様々な観点から学ぶことができました。様々な実験施設や一台数千万円するというDNAシーケンサー（解析器）も見せてもらいました。また、企業との共同開発を推進するFii施設（平成23年開所）の見学も繊維学がこれからの社会に革新をもたらす分野であることを学ぶ機会となりました。

②日置電機株式会社

・日置電機について、企業の歴史や生産品について説明を受けましたが、何より、企業理念と人に対する思いが素晴らしくて感動しました。理念の1つである“人間性の尊重”に関して聞いたとき、日置電機はとても素敵な企業だと思いました。お客様だけでなく、すべての人々の幸せを願うという考えや、社員一人ひとりが生き生きと働けるような環境づくりなどがされていて、理想的な企業だと感じました。また、今年度の新入社員で飯田高校出身の方から、高校時代や大学時代の過ごし方、日置電機へ就職した経緯や抱負などを詳しくお話していただき、生徒たちへあたたかいエールをいただきました。

